

令和4年第3回教育委員会定例会 会議録

1 開催日時 令和4年3月18日（金）午後1時30分～午後2時30分

2 開催場所 第3委員会室

3 出席者

【教育長】 水田 博和

【委員】 浅井 敦臣

【委員】 大野 みどり

【委員】 小塩 泰代

【委員】 竹田 卓弘

【事務局】 教育部長

文化スポーツ部長

教育総務課長

同 課長補佐

同 担当主査

学校教育課長

同 主幹

同 指導主事

学校給食課長

文化財課長

野外教育センター所長

同 主幹

文化・生涯学習課長

スポーツ課長

図書館長

食育推進給食会企画経営課長

西野 正康

上田 敦

児島 康万

渡邊 直美

加藤 恵子

大城 達也

南 英雄

村上 洋

長江 泰典

村松 一秀

木全 敦彦

西岡 靖成

内藤 純子

金田 浩

田中 裕子

生倉 勉

4 議 題

(1) マスク着用を促す声掛けや指導の撤廃を求める請願書

(2) 学校給食の黙食の撤廃を求める請願書

(3) 令和4年度学校教育指導方針・重点について（案）

(4) 令和4年度教育長職務代理者の指定について

- (5) 令和4年度愛日地方教育事務協議会の委員について
- (6) 教育委員会事務局等人事異動について
- (7) 令和4年度教職員定期人事異動について

5 報告

- (1) 令和4年教育委員会定例会の日程変更について

6 議事概要

教育長	本日の傍聴者は3名です。
教育長	春日井市教育委員会会議規則第6条第2項の規定により、議事録署名人は、浅井委員を指定。
教育長 (報告事項)	3月3日、中学校の卒業式が行われ、2,830名が卒業しました。また本日、小学校の卒業式が行われ、2,905名が卒業しました。昨年度と同様、新型コロナウイルス感染予防のため、学校規模によりますが、卒業生・保護者・教職員による式となりました。各校とも、厳粛な中にも温かみのある式であったと報告を受けています。 愛知県公立高等学校入学者選抜は、全日制の一般・推薦入試が共に、Aグループが3月7日・8日、Bグループが3月10日・11日に行われ、合格発表は3月18日です。なお、通常の追検査を含めてA、Bいずれかのグループの高等学校において学力検査を受けることができなかった者に対する「特別の追検査」が3月25日に設定されています。 小中学校の令和3年度修了式は、3月24日(木)に各校で簡素化して実施する予定です。 新型コロナウイルスについてです。1月21日に出された「まん延防止等重点措置」は、2月13日までであったものが、3月6日まで延長、そして3月21日まで再延長されています。春日井市の新規感染者は、2月21日の591人を最大に、増減を繰り返し3月6日に、1月23日以来の2桁の85人と、減少傾向にあります。

令和4年度は、4月1日（金）教職員辞令伝達式を市民会館で実施します。4月6日（水）小学校入学式、4月7日（木）中学校入学式ならびに小中学校始業式が行われます。

教育長

「議題6 教育委員会事務局等人事異動について」及び「議題7 令和4年度教職員定期人事異動については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書きを適用し非公開とすることとし、順序を入れ替え、議題7、議題6の順に審議することを提案。

全委員

提案のとおり、全員一致で決定。

1 議題

教育長

(1) マスク着用を促す声掛けや指導の撤廃を求める請願書

請願者

感染から子どもたちを守るために先生たちが徹底していることは十分理解している。しかし、担任の先生によっては、1. 苦しくてマスクから鼻を出しているのを注意される、2. マスクをはずすと先生に怒られる、3. 学校では給食時以外はマスクをはずせない、4. マスクをしていないと友達や保護者からマスクつけてと言われるのでつらい、5. マスクをはずしていると差別的な冷たい視線を感じる。その延長線か、公園で鬼ごっこをしていて息が荒くてもマスクをはずさない子が多い。

また、マスクを着用できないことを学校に伝えても、1. しゃべるならマスクを付けること、2. マスクをしないなら黙ること、3. 鼻水がでる時は鼻も隠すこと等、と言われる。他に、マスクをしていない子に対して不安や恐怖心を持つ児童がいる場合は、学校側がその子にマスクをさせようとし、マスクの弊害について先生に調べてほしいと話をしても、「他にもやることがたくさんあるので調べる時間はない。教育委員会からおりてきたものに従うのみです。」と言われた。

このように、マスクをつけることができない子が一定数いることや、着用できない子に対しての不安や恐怖心からか、差別や圧力、偏見等が生じているように思う。すべての児童がお互いに思いやる

気持ちを持って、充実した学校生活を送ってほしいと思う。

浅井委員

不採択の立場で意見したい。

請願理由は納得のいく内容だと思う。ただ、マスク着用を促す声掛けや指導について撤廃まではどうかと思う。また、請願書中の①から③については、既に学校で実施していると理解している。

マスク撤廃の時期について、感染症法における感染症の分類によると、新型コロナウイルスは現在2類に位置付けられていることから、マスク着用の撤廃は時期尚早だと思う。いずれ5類に引き下げられるという報告もあり、その時点では、インフルエンザのように誰でも簡単に治療薬を飲めるようになると考えられるので、マスクの撤廃は可能かと思う。

小塩委員

不採択という立場で意見を申し上げる。

請願理由にあるように、子どもの発達を考えると、表情も読みにくい等、マスクを付けることによる弊害は確かにある。ただし、「高齢者しかコロナで亡くならない」という点は賛成できない。「高齢者はコロナ前でも、風邪で亡くなっていたが、マスクを着用する社会ではなかった」という内容もあるが、新型コロナ感染症については、入院中は面会もできないため家族と会えない。また、亡くなると、遺族が会えるのはお骨になってからというのが現状だ。従来の一一般の風邪で亡くなる場合とは全く違う現実がある。これが新型コロナ感染症の大きな特徴だ。

「子どもは重症化しない」という点について、軽症のレベルとはいえ毎日38度から39度もの発熱が続く。新型コロナの重症とは、集中治療室に入るとか、死んでしまうかもしれないレベルであり、39度の高熱が出るレベルを指しているのではない。重症化しないと言われる子どもたちであっても高熱が出て苦しい思いをするので、そのリスクは避けてあげたいと思う。

こうしたことから、マスクを付けることの保障も必要だと思うので、着用の撤廃ということには賛成しかねる。

大野委員

マスクを付けられない子への配慮は請願のとおりだと思う。

しかし、マスク着用の撤廃についてはリスクが高いと思う。国からは、マスク着用は基本的な感染対策の一つであると指導されてい

竹田委員

る。マスクを着用しないと感染のリスクは高くなり、特に現在のオミクロン株は10代の感染者が多い。マスクを付けないで学校生活をする、感染が拡大し、休業せざるを得ない学校が増えるだろう。学びの場を提供することが難しくなり、市の教育が成り立たなくなってしまうことが強く懸念される。

現時点では、このように考えている。

コロナ禍という状況になって2年経過した。教育現場を含め、いろいろな社会において変化に対応せざるを得ない状況のなか、マスク着用もその変化の一つの現われだ。新型コロナウイルス対策について、国に言われたことをただ正しいとするのではなく、議論をしていくことが非常に大切なことだと思う。

結論的には不採択として意見を申し上げる。

新型コロナウイルスについての考え方は人それぞれで、新型コロナウイルスはないという人も含め、温度差や認識の違いが非常に大きい。しかし、新型コロナウイルスに感染し、体調を崩し、亡くなる人が非常に多い状況のなか、新型コロナウイルス感染症に対する対策はしていかななくてはならない。

マスクの着用は、新型コロナウイルスが登場する前から、例えば家庭でのインフルエンザの予防手段としてなど、ウイルスを予防する点では効果的であると考えられてきた。そのことから、マスクの着用については、やはり一定の合理性があると思うのが普通だ。

もちろん、マスクを着用することで、顔が見えない、表情がわからない、コミュニケーションが取れないというデメリットはある。それらデメリットと比較した上でも、やはり新型コロナウイルスに感染することを考えれば、デメリットは非常に小さいものだと考えざるを得ない。よって、マスク着用を推進するのは致し方ない対応だと思う。

小中学校の教育現場でマスク着用を推進していくことは、6歳から15歳の子どもが共同生活を行う学校において、マスクを着用しないと感染が広がり、子どもが帰宅し家族に感染していくという感染拡大の経路が伝えられているなか、学校での感染予防は非常に重要だ。従って、マスク着用の推奨は致し方ない。

ただし、マスクを付けることができない人への配慮は当然必要であり、一般的に取り決めるというのではなく、教育現場において、

	教員や子どもたちがやりとりする中で、子どもの親と個別に対応していき、差別のない環境づくりをしていくべきだと思う。
教育長	採決の結果、全員一致で「不採択」に決定。
教育長	(2) 学校給食の黙食の撤廃を求める請願書
請願者	3月7日（月）、参議院予算委員会で、14分給食ルールが取り上げられた。近くの学校でも、給食時に少しでも話すと担任に怒られると聞いた。知り合いの子どもの担任教員は、早く食べるようにせかし、時間が過ぎるとコップに残っているおかずやごはんを全部一緒に入れてくるとのこと。その子どもは給食の時間がすごく辛いと言っている。これを聞いて心が痛かった。 先生は、子どもたちを感染から守るため行っていることは十分理解している。しかし、子どもの心とからだから失われるものがたくさんあると感じる。2020年から子どもたちにとって長い2年が過ぎた。小さい声で「これ美味しいね。」「これはなんの魚かな。」など、ほんの少しの会話からでも始めたい。そして、食育の重要性を再度認識していただきたい。
浅井委員	請願理由の内容は、理解できることばかりだが、ただ、撤廃という点でやはり時期尚早だと思う。
大野委員	子どもたちが給食時間を楽しめないなどの請願理由はごもっともだと思う。ただ、感染リスクを考えると、黙食をやめて会話をするようになったら、飛沫感染のリスクが上がり感染者が増え、学校は休業措置をとらざるを得ない状況になる。学びの場がなくなってしまうことが一番懸念される。マスクをなくして会話できるようになるのが一番いいと思うが、今は我慢をして感染リスクを早く下げ、その間に治療薬やワクチンが開発され、子どもたちが楽しく給食を食べられることが望ましい。現時点では、黙食の撤廃は難しいと思う。
小塩委員	現時点では、不採択と考えている。 マスクを取って、楽しく食事をできるようなときを早く迎えたい

と思う。

しかし、マスクを取って食事をする事は、一番感染リスクが高い条件に当てはまるので、感染リスクを避けるためには致し方ない状況だと思う。

確かに楽しく食事をする事は、食育という観点からは大事な事なので、給食の時間におしゃべりをしなくても、その場が窮屈にならない工夫をすると良い。例えば、校内放送でリラックスして食事をとれる音楽やお話を流すなど、友達同士の会話以外でも食育はできると思う。食事のマナーという点でも、おしゃべりだけではないという視点から、食育の工夫をすると良い。

竹田委員

請願によると、給食の時間が授業のように前を向いて黙食をするということにより、楽しみが半減になり、コロナ禍の前と後では変わってしまったという内容だ。確かに、その状況は理解できる。ずっと黙食していれば良いと考えている人はだれもいないだろう。ただ、撤廃するのは今なのかということについては、慎重に考えた方が良い。

我が国での新型コロナウイルス感染症対策は、飲食店に対する規制に重点がおかれている。食事及び飲酒中の飛沫が感染の原因になっているということが我が国では中心に考えられている。やはり、共同生活の場である学校で出される食事においても、それは例外ではない。そのことから考えると、黙食は今の時点では致し方ない。

請願書に書かれている「大人が飲食店で飲酒をしながら仲間と賑やかに食事する」は、飲食店で賑やかに食事をする大人が間違っているという方向の話だ。報道も、それを見習えと推奨する方向ではない。報道の仕方にも気を付けた方が良い。

基本的には、飲食店が営業時間の規制を守ったうえで飲食をすることを前提としているならば、子どもがマスクをしないで賑やかに食事をして大丈夫かという、まだその時期には来ていないと思う。

よって、この請願については不採択とせざるを得ない。

教育長

採決の結果、全員一致で「不採択」に決定

教育長

(3) 令和4年度学校教育指導方針・重点について（案）

教育長 採決の結果、全員一致で資料のとおり決定。

教育長 (4) 令和4年度教育長職務代理者の指定について

教育長 竹田委員を指定。

教育長 (5) 令和4年度愛日地方教育事務協議会の委員について

教育長 協議により、竹田委員に決定。

2 報告事項

教育長 (1) 令和4年教育委員会定例会の日程変更について

○参考資料について

大野委員 7ページのスクール・セーフティ・サポーターについて、設置当初と比べ、現在は中学校も落ち着いていると聞いているが、現在の状況、継続する理由等を教えてほしい。

学校教育課長 設置人数、設置校は変わらない。
活動内容は変わらないが、落ち着いている状況が定着しているのであれば、縮小方向に考えていく必要がある

上記のとおり、議事の経過及びその結果を明確にするためにこの会議録を作成し、教育長及び指定された会議録署名人が署名する。

令和4年4月14日

教育長 水田 博和

署名人 浅井 敦臣